



特集 Feature Article ミカエル・カルマノ学長

2008年4月、ミカエル・カルマノ人文学部教授が第6代南山大学長に就任した。南山学園理事長を任期満了で退任し南山大学長に就任した今、カルマノ学長が思う南山大学像、学生像を聞いた。

Michael Calmano

ミカエル・カルマノ
1948年7月23日生まれ。ドイツ連邦共和国(旧西ドイツ)ヘッセン州リンブルク出身。ドイツの神学校・南山大学文学部神学科(現在人文学部キリスト教学科)で神学を学び、アメリカで教育学の博士号を取得。1975年司祭叙階。1984年から南山大学にて教鞭を執る。2008年4月、南山大学学長に就任。内外カトリック教育の各種要職を兼任し、多忙な日々を送る。趣味は、クラシック音楽鑑賞と読書。

本当の「選び」のはじまり

2008年4月1日、南山大学長になってはじめての新入生を迎えました。入学式の席でも申し上げたのですが、学生には南山大学を選択した意味を常に考えて欲しいと思っています。皆さんは数多くの大学の中から南山大学を選択しました。この「選択」を通じた決断、すなわち「選び」は南山大学への入学で終了ではなく、必ず何かの目的につながっているはず。南山大学で何を目的に勉強し、どこへ向かって進んでいくのか。私は学生一人ひとりが自分で考える力を持ち、自分自身と他者の尊厳を尊重し、その中でやりたいことを見つけ努力して欲しいと思っています。また、学生には、学校から与えられた授業・課題をそのまま受けるだけでなく、批判的な意見もどんどんぶつけて欲しいと思っています。現状をそのまま受け入れるのではなく、現状を批判することで、自分が何をしたいのか、何を勉強したいのかという目的意識をより強く持つことができるでしょう。南山大学への入学はひとつの出発点であり、ここから本当の「選び」がはじまります。そのことをしっかりと心に留めておいてください。

個の力を、世界の力に。

南山大学は、キリスト教世界観に基づく学校教育を行ない、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成を建学の理念としています。そして、その具体的な方向性を与えるために「Hominis Dignitati(人間の尊厳のために)」という教育モットーを掲げています。この建学の理念を具現化する施策として、本学は、昨年、20年後の将来像(グランドデザイン)を策定し、その中で本学のビジョンを「人種・障がい、宗教、文化、性別など、様々な違いを認識し、多様性を前提とした人間の尊厳、他者の尊厳を大切に、人々が共生・協働することで、新たな価値の創造に貢献する」と定めました。さらに、このビジョンを端的に表す言葉として、「個の力を、世界の力に。」をキーワードとしました。多様性を尊重する新たな価値の創造は、今後、世界的にも重要な価値観のひとつとなるでしょう。人間の尊厳-自分自身と他者の尊厳-を尊重し、それを推進していく人々



が共生・協働することにより「個の力」が結集され、それが人類の発展に貢献できる「世界の力」となりえます。この実現に向けて、本学は、すべての構成員の「個の力」を充実させることに努めてまいります。南山大学に入ると、「人間の尊厳のために」という言葉に何度も出会います。それはなぜでしょうか?それは、学生の皆さんに、自分自身が、何を目指して何のために、この南山大学で学ぶかについて常に考えてほしいからなのです。「人間の尊厳のために」という言葉に込められた大切なメッセージ-勉強だけではなく、自分自身の今後の人生を、社会や人類にどのように役立たせることができるのか-ということに思いを馳せ、私たち教員に知らせて欲しいと思います。私たちが学生の皆さんの成長を手助けし、教えることができますように。

自ら学べる環境作り

学生一人ひとりの「個の力」を伸ばしていくために、学生自らが自分の潜在能力に気づく教育環境、その力を十分に発揮できる場を整えることが大切だと考えています。南山大学は南山外国語専門学校を前身としてスタートしており、開学以来、語学教育には力を入れてきました。そのことは「語学の南山」と言われる世間の評判からもおわかりだと思えます。近年でも「学ぶ英語」から「使える英語」を目標として、英語教育センターを開設し、習熟度別クラス編成の全学的導入をはじめ、施設内では外国語しか使ってはいけないという「ワールドプラザ」の設置など、学生が自主的に外国語を使える環境を整備しています。私の経験からも語学は時間をかければかけるほど上達します。しかし、授業で語学を教える時間は限られているため学生は自主的に学ぶ必要がある。そのため「自ら学べる環境作り」、これが大切であると考えています。

学長からのメッセージ <http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/president/index.html>

学長からのメールマガジン <http://www.nanzan-u.ac.jp/magazine/index.html>

世界と渡り合える知識と意識を備えた人材に

グランドデザインでは、「世界で選ばれる大学」「世界に人材を輩出できる大学」を実現していることが謳われていますが、本学の教育が世界に通じるものとなるためには、「南山の国際性」の現状を真摯に捉え直し、戦略的な取り組みを実践していかなければならないと考えています。その取り組みのひとつとして、現在外国語学部などで実施されている外国語を教授言語とする講義科目を全学部に導入し、最終的には各学部における授業の10%程度は外国語で授業にしたいと考えています。また本学には多くの外国人留学生、外国文教員が在籍しているほか、語学教育の一環として、総合政策学部の南山アジアプログラム(NAP)や外国語学部の実



習科目のように、一定期間外国で学ぶプログラムがあります。机上での勉強に加え、実際に異なる文化、異なる考え方を持つ人と交わることで、文化の違いだけでなく個人の違いも大きいことを知ることができるでしょう。今後本格的な異文化交流を全学的に推進し、学問分野に促されない国際交流を実現することで他大学と差別化した国際交流プログラムを開発していきたいと考えています。このように、南山の「国際性」という現有資産を活かした環境整備をさらに進め、学生の皆さんには世界と渡り合える知識と意識を備えた人材に育って欲しいと願っています。



News

副学長・学部長・研究科長発表

2008年2月29日開催の南山学園理事会において、2008年4月からの南山大学副学長・学部長・研究科長が決定した。任期は、副学長が2008年4月1日から2011年3月31日(3年間)、学部長・研究科長が2008年4月1日から2010年3月31日(2年間)となっている(ただし、法務研究科長のみ2008年4月1日から2009年3月31日まで)。

【副学長】

 【総務担当・将来構想担当】 野呂昌満 教授 【数理情報学部】 (専攻分野:ソフトウェア工学)	 【教務担当】 青木清 教授 【法学部】 (専攻分野:国際私法)	 【国際担当】 木下登 教授 【外国語学部】 (専攻分野:スペイン哲学)
---	--	--

【学部長・研究科長】

 【人文学部長】 坂井信三 教授 (専攻分野:社会人類学、歴史人類学)	 【外国語学部長】 藤本博 教授 (専攻分野:アメリカ研究(現代アメリカ外交)、国際関係論)	 【経済学部長】 【経済学研究科長】 荒井好和 教授 (専攻分野:金融論)
 【経営学部長】 薫祥哲 教授 (専攻分野:環境経済学)	 【法学部長】 岡田泉 教授 (専攻分野:国際公法)	 【総合政策学部長】 藤原道夫 教授 (専攻分野:金融論、労働関係論)
 【数理情報学部長】 【数理情報研究科長】 鈴木敦夫 教授 (専攻分野:数理工学)	 【人間文化研究科長】 津村俊充 教授 (専攻分野:社会心理・教育心理学)	 【国際地域文化研究科長】 細谷博 教授 (専攻分野:日本近代・現代文学)
 【ビジネス研究科長】 澤木勝茂 教授 (専攻分野:オペレーション・リサーチ)	 【法務研究科長】 丸山雅夫 教授 (専攻分野:刑事法)	 【総合政策研究科長】 松戸武彦 教授 (専攻分野:比較社会学)

南山大学附属小学校開校

南山学園創立75周年記念事業として準備が進められてきた南山大学附属小学校が開校した。開校式は、県の設置認可を受けて3月22日に行われ、松原武久名古屋市長、ハンス・ユージェン・マルクス校長ら南山学園関係者、県内の教育関係者など約180名が出席し、愛知県内唯一となる男女共学私立小学校の誕生を祝った。4月6日には、名古屋市熱田区のセンチュリーホールで入学式が行われ、真新しい制服に身を包んだ新1-3年生計280名(1年生93名、2年生92名、3年生95名)と保護者が集った。式典は、カトリック司祭による聖書朗読など荘厳な雰囲気の中ではじまり、挨拶にたったハンス・ユージェン・マルクス校長は、「一人ひとりの人間が神様から愛されていることを、南山小学校での毎日の学びを通して、ますます深く知っていただきたいと願っています。」と述べ、新しい南山生の誕生を歓迎した。また、校歌「こころのとびら」と、ともだちのうた「みんなの夢 かなえよう」が参加者全員で合唱され、元気いっぴいの声が会場に響いた。



連続講演会2008「大学院の授業を聞きに行こう」

2005年度に開始した連続講演会も今年で4年目を迎える。過去3年「人間の尊厳科目開講10周年記念:連続講演会」「学科長が語る南山の現在(いま)」「教養教育への扉」と展開してきたが、今年度は、「大学院の授業を聞きに行こう」と題して、一般の学生を対象に大学院の授業公開を行う。本学大学院は、人間文化、国際地域文化、経済学、ビジネス、法務、総合政策、数理情報の7つの研究科をもち、研究者の養成はもとより高度専門職業人の養成にも力を入れている。これら各研究科の研究分野から11のテーマを取り上げ、下記教授らによる授業を連続講演会の形で実施する。

終了 第1回 5/24(土) 人間文化研究科 キリスト教思想専攻 渡邊学 教授 宗教研究の課題 -伝統からスピリチュアリティまで-	終了 第2回 6/7(土) ビジネス研究科 経営学専攻 薫祥哲 教授 環境マネジメントにおける費用便益分析 -最適汚染レベルと環境評価-	終了 第3回 6/28(土) 人間文化研究科 言語科学専攻 有元 将剛 教授 人間の言語について考える
申込受付終了 第4回 7/5(土) 法務研究科 法務専攻 榎原 秀訓 教授 裁判から見る情報公開の現実	第5回 7/19(土) 人間文化研究科 教育フロンティア・シヨウ専攻 津村 俊充 教授 体験からの学びを深める教育ファシリテーション -ラボラトリー方式の体験学習を原点として-	第6回 8/2(土) ビジネス研究科 ビジネス専攻 湯本 祐司 教授 日本の流通システム -過去・現在・未来-
第7回 9/20(土) 数理情報研究科 数理情報専攻 河野 浩之 教授 デジタルデータのアーカイブ -情報の蓄積・保存-	第8回 10/4(土) 総合政策研究科 総合政策専攻 村松 久良光 教授 生産現場の熟練と雇用政策 -若者と高齢者-	第9回 10/25(土) 経済学研究科 経済学専攻 近藤 仁 教授 数字が語る世界

場 所: 南山大学 名古屋キャンパス・B11教室 (住所:名古屋市中区山王町18)
時 間: 14:00~16:00
定 員: 各講演400名(無料)
申 込 期 間: 第5回~第6回受付中 ※第1回5/24、第2回6/7、第3回6/28、第4回7/5は終了いたしました。第7回~第11回 7月20日より受付(但し、各講演開催日の1週間前(締切))
申 込 方 法: 受講を希望される方は、ハガキ、FaxまたはWebページにて、住所、氏名、年齢、電話番号、希望講演日を明記のうえ、南山大学学長室までお申し込みください。(電話によるお申し込みは受け付けません。)
受付終了後、順次受講票をお送りします。
申込・問合せ: 南山大学学長室 〒466-8673 名古屋市中区山王町18
Phone 052-832-3113 Fax 052-832-0666
E-mail gaku-koho@nanzan.ac.jp
URL <http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/koho/koenkai/2008/index.html>

個人情報の取扱について: 収集した個人情報は、受講 キャンセル受付、受講票の作成・発送、受講者リストの作成、講演会受付、今後の講演会開催のご案内のために利用します。なお、収集した個人情報は、受講発行手続きのために委託業者に提供いたします。

第10回 **11/29(土)**
人間文化研究科 人類学専攻
大塚 達朗 教授
縄紋土器はなかった

第11回 **12/6(土)**
国際地域文化研究科 国際地域文化専攻
藤本 博 教授
「戦争の記憶」継承と平和構築の課題
-ヴェトナム戦争が問うこと-

Special events

卒業式
3月20日、2007年度卒業式が日本ガイシホールにおいて行われ、2,182名(学部生1,985名、大学院生197名)の卒業生を社会へ送り出した。

入学式
4月1日、2008年度入学式が日本ガイシホールにおいて行われ、カトリックの厳肅な雰囲気の中で学部生2,326名、大学院生214名の入学者を迎え入れた。

外国人留学生別科 2007-2008年修了式
5月17日、外国人留学生別科2007-2008年修了式が南山大学体育館において行われ、ミカエル・カルマノ学長より128名に対して修了証・参加証が授与された。

教育推進GP研修会 一人間関係力を育成する「ラボラトリー体験学習」を学ぶ研修会プログラム

平成19・20年度文部科学省による専門職大学院等教育推進プログラムに採択された人文学部人間文化研究科の「教え学び支え合う教育現場間の連携づくり-ラボラトリー方式の体験学習を核とした2つの連携プロジェクト」は、生徒や教師の孤立化が問題視される現在の教育現場に人間関係、信頼関係の再構築を目指す取り組みとして注目を集めている。このプロジェクトの軸になっているのが「ラボラトリー方式の体験学習」で、対人間関係などの心の問題について、参加者の「体験」を素材として、(共催:独立行政法人国立青少年教育振興機構)(後援:愛知県教育委員会・名古屋市教育局委員会・愛知県都市教育協議会・愛知県町村教育協議会)

1	学校現場で活かす体験学習研修会 ~体験学習で学級が変わる~	6/28(土)-29(日) 9/13(土)-15(日)	ベークセミナー フュッシャーセミナー	国立日高青少年自然の家 (北海道)
2	学校現場で活かす ラボラトリー方式 体験学習研修会 ~先生 ケンキに な・あ・れ!~	8/18(月)-20(水)		国立花山青少年自然の家 (宮城県)
3	試みて実験して行動科学で学ぶAAP (あかきアベニチアプログラム) ~「ラボラトリー方式の体験学習」を中心にして~	8/5(火)-8(金)		国立赤城青少年交流の家 (群馬県)
4	学校現場で活かす体験学習研究会 ~先生が変わる!生徒が変わる!学校が変わる!~	7/28(月)-31(木)		国立信州高遠青少年自然の家 (長野県)
5	学校現場で活かす体験学習研修会	8/18(月)-20(水)		国立立山青少年自然の家 (富山県)
6	学校現場で活かす体験学習研修会	7/22(火)-25(金)		国立立飛登青少年交流の家 (石川県)
7	学校現場で役立つ「体験学習」研究会	8/4(月)-6(水)		国立淡路青少年交流の家 (兵庫県)
8	学校現場で活かす!体験学習研修会	7/26(土)-28(月)		国立大洲青少年交流の家 (愛媛県)
9	人間関係づくりへのアプローチ ~体験学習法研究会~	8/19(火)-22(金)		国立江田島青少年交流の家 (広島県)
10	学校現場で活かす ラボラトリー方式 体験学習研修会 ~先生が変わる!子どもが変わる!学校が変わる!~	8/4(月)-7(木)		国立山口徳地青少年自然の家 (山口県)
11	Challenge to the Revolution ~学級改革への挑戦~	8/5(火)-8(金)		国立藤早青少年自然の家 (長崎県)
12	学校現場で活かす人間関係づくりセミナー ~クラスが変わる、学校が変わる~	8/18(月)-20(水)		国立大隈青少年自然の家 (鹿児島県)

「体験学習 ファシリテーターガイドブック」無料配布中
問合せ先: 専門職大学院等教育推進GP本部
Phone 052-832-3314 Fax 052-832-3315 E-mail edu-gpstaff@nanzan-u.ac.jp
URL <http://www.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/gp2007/index.html>

フレッシュマンス祭
4月2日~4日、7~8日、名古屋・瀬戸両キャンパスにおいて、新入生歓迎イベント「フレッシュマンス祭」が開催され、ガイダンスとともにクラブ・サークルの勧誘が行われた。

CJSフェスタ
4月9日、名古屋キャンパスにおいて、外国人留学生別科(CJS)生が日頃の学びの成果を発表するCJSフェスタ2008が、開催された。

南山留学フェア
4月9日、留学を希望する日本大学生を対象に南山留学フェアが開催された。参加26大学の外国人留学生別科(CJS)生が出身大学に分かれ、協定校の様子や町の雰囲気を紹介した。